

微生物研究会は今まで仮説をたてて、《土壌、植物、すべての地球の生き物に微生物の働きが必要》と考え研究・活動してきました。  
研究を重ねる内に、微生物の働きは土壌だけでなく環境にとってもやさしく、地球を守ることにつながるのではないかと考え、微生物研究会改め〔地球微生物研究会〕と会の名称を変更しました。

自然界の植物にも、微生物が必要です。  
その微生物は、どこにあるのか？いるのか？

微生物は草たちが持っているのです。  
草が繁殖している土壌というのは、微生物が豊富で土がフカフカしています。  
GP 農法はその草を発酵させ、微生物を取り出すのですが、この状態は不安定なことに気がつきました。発酵させる時の栄養がある間は活動しますが、栄養が無くなると休眠するからです。

そこでこの草を発酵させたエキス（草エキス）を米ぬかと混ぜ、地磁気とステージの気と合わせ、微生物を活動させます。  
次に畑に少し穴を掘り、そこに草、野菜残滓等を山積みにし、草エキスと米ぬかを混ぜたものをまんべんなくかけて、ブルーシートをかけます。  
するとすぐに熱が70℃くらいに上がり、20日ほどで落ち着きます。  
草の山が1/3くらいになった頃、草の酵素ボカシの完成となります。

もう一つ、樹木のチップに草エキスと米ぬかを混ぜて、地磁気とステージの気を使い、微生物を動かしたものをまんべんなく混ぜて、草の酵素ボカシと同様に畑でブルーシートをかけて熟成します。するとすぐに70℃くらいになり20日ほどで落ち着きます。これで樹木ボカシの完成です。

酵素ボカシの使い方は簡単です。  
野菜や植物を植えてある所にまくのです。  
すぐに効果が出てきます。

そして野菜や植物の成長が促されるため、勢いが出てきます。  
雨が降らず暑さが続く中でも、野菜や植物が枯れないのです。  
土壌の水分が保たれ、しっとりしているからです。  
野菜や植物たちが環境に左右されずに成長できるというわけです。

暑さにも強く、夏バテしないで育つので、収穫期間も長くなり収穫量も増えます。  
不思議なことに、酵素ボカシをまいた所には草が生えません。

簡単で、人手がかからず、豊かな実りが長く得られる。  
これが微生物の働きを活用した GP 農法です。

運営：地球微生物研究会/NPO 法人地球友の会  
問い合わせ先：[gpnouhou2@gmail.com](mailto:gpnouhou2@gmail.com)

